

中村 「キリン一番搾り」が発売された当時は、そのおいしさに驚きました。今でも大好きなビールの一つです。キリンビールの製造ラベルを見て、取手工場の製造の証であるNo.24を見ると、とても誇らしい気持ちになります。特に県外でNo.24の製造ラベルを見ると、周りの人に「これは取手のビールだよ！みんな飲んでね」と自慢しています。

大企業が担う社会的役割とは



中村 大企業が担う社会的な役割をどのように考えていますか？行政との連携などもお聞かせください。

堀口 キリンビールが所属するキリングループは、CSV (Creating Shared Value) を経営の中心として、社会的課題を解決することで経済的価値を創出し、社会と共に持続的な成長を続けていくことを目指しています。

具体的には、酒類事業を営む責任として、アルコール関連問題の解決に取り組むことを前提に、健康・コミュニティ・環境という社会課題に取り組んでいます。私たちキリンビールは、「お酒の未来を創造し、人と社会に、つながるよろこびを届け続ける会社となる」という未来を描いています。そのためにCSV経営を推進し、お客様と社会に貢献していきます。

岡久 アルコール関連問題の解決でいうと、取手工場は、春・秋の全国交通安全運動キャンペーン期間に、取手警察署の皆さんなどと一緒に街頭で飲酒運転撲滅の啓発として、当社のノンアルコールビールのサンプルを配布しています。環境面の対策としては、ビール・チューハイの製造に必須の水の排水や温室効果ガスの排出の原因となる電気・ガスの使用量削減に取り組んでいます。



岡久工場長

中村 御社の取り組みは、とても大切だと思います。本市も健康・コミュニティ・環境の社会課題は重要であると考えていて、市の重点施策にも位置づけています。環境面の取り組みを挙げると「脱炭素と循環型社会」の実現に向けて、未来を担う小・中学生自らが環境や社会の課題を考え、行動を起こす力を身に付ける環境教育となる「サステナブル学習プロジェクト」の推進です。この活動を通じて、令和6年には市立取手西小学校が「脱炭素チャレンジカップ」の最優秀賞に当たる、環境大臣賞を受賞しました。この取り組みは今年度に市内の全小・中学校へ展開したところです。

さまざまな社会的課題を解決していくためには、市民協働の取り組みに加え、市内企業との連携が重要だと考えています。

—— 企業と行政との連携で、人と人をつなぐよろこびを生み出していく

中村 昨年10月に発売した御社の新商品である「キリングッドエール」は、地域コミュニティとのつながりもあるとお聞きしています。

堀口 グッドエールという名前に込めた意味は、大きく二つあります。一つ目は、これまでのビールとは一線を画す「まったく新しいおいしさ」を実現した、エールタイプのビールであること。二つ目は、未来への前向きな応援を「エール」として人や社会に明るさをつないでいくブランドアクション「グッドエールJAPAN」(※)です。私は、ビールには人と人をつなぐポジティブな力があると思っています。長年ビールに携わっている中で、この力が生む多くの笑顔を見てきて、その力の大きさを実感しています。

そして、このポジティブな力は、これからの時代にこそ求められるものです。グッドエールと共に、つながるよろこびを未来につないでいきます。

中村 御社のグッドエールJAPANの寄付活動の対象先に、市の大空風プロジェクトを採択していただき、ありがとうございました。



この大空風プロジェクトは、取手市、東京藝術大学、そして取手市民の皆さんが協力して進めている、「取手アートプロジェクト(TAP)」による《半農半芸》という取り組みの一環としてスタートしたプロジェクトです。この活動は、かつて高須公民館で、地域の皆さんが集まって行っていた風揚げに注目し、自然素材を活用した表現を行う芸術家の方と共に、風づくりから行う風揚げの取り組みで地域をつなぐ実践を積み重ねています。

地域の営みに、芸術文化を取り入れて発信することで、世代や地域を超えた交流を促進し、新しいつながりを育むことを目指しています。

こうした活動を通じて、持続可能な価値観の形成にも取り組んでいます。地域の皆さんと豊かなコミュニティを築いていきたいと思っています。

—— 地域に根差した、さまざまな関わり

中村 地域経済の活性化の観点で、キリンビール取手工場として何か取り組んでいることはありますか。

岡久 取手工場は、「とりで利根川大花火」や「駅前にぎわいフェスタ」などへの協力、商工会や各地域のお祭りへの協賛など、操業当初から市民の皆さんと長くお付き合いさせていただいています。また、取手市防火安全協会、取手市環境審議会、経営者協会、間税会などの各種協会にも協賛・参画しています。

そして、取手工場は約550人の従業員が働いているので、雇用の創出としての役割も自覚しています。さらに工場見学では、取手市民のお客様はもちろん、市外・県外のお客様にもご来場いただいていたいて、その数は年間約1万5,000人に及びます。

中村 キリンビール取手工場があることで、市内の経済活性化につながっていると感じます。ふるさと取手応援寄附金(ふるさと納税)額は、令和6年度に19億円もの金額をご寄付いただいていたおり、中でもキリンビールの返礼品は大変人気があるもので、市の財政面でもお力添えをいただいています。

これからチャレンジしたいこと



堀口 キリンビールが目指すものは、お酒の価値を通じて、人と社会につながるよろこびを届け続けることだと考えています。工場を通じた地域の方とのさまざまな活動や、グッドエールJAPANといったアクションを全国で一層発展させていくために、お客様にお届けする商品にもさらに磨きをかけたいと思います。イノベーション溢れる新しい価値やおいしさをお客様にお届けできるように、これからもチャレンジしていきます。

岡久 取手市や市民の皆さんとともに成長・発展させていただいた取手工場の55年の歴史を次世代につないでいきます。また、飲酒運転撲滅啓発活動、温室効果ガス削減、雇用創出などの社会課題を解決しながら、ふるさと納税やさまざまな地域イベント、各協会への参画や工場見学で人と社会をつなぎ、首都圏に近い取手市に立地する工場の資産価値を最大限生かしていきます。

中村 私自身、今年の春で、市長に就任して4年目に入ります。これまでもまちの未来をどう描いていくのか、市民の皆さんの声に耳を傾けながら必死に取り組んできました。一貫して掲げてきた「住み続けるほど好きになる街をつくる」という思いは、単に便利さや快適さだけでなく、住むほどに愛着が深まり、ここに暮らして良かったと実感できる街にする決意です。

現在、取手駅前や桑原地区の開発に力を注いでいて、さらなる交流人口の拡大と定住化の促進を目指しています。にぎわいと雇用が生まれ、人と人が自然につながること、この街の魅力はさらに輝くはず。その過程には、さまざまな課題・困難はありますが、市民や企業の皆さんと力を合わせながら、粘り強く取り組み、常にチャレンジ精神を持って必ず実現させていきます。



人と人をつないでいくチャレンジ！